

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医務費

事業名 在宅医療連携強化事業費補助金 (地域医療介護総合確保基金)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 在宅医療福祉係 電話番号：058-272-1111(内3283)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,107千円 (前年度予算額： 5,107千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,107	0	0	0	0	0	5,107	0	0
要求額	5,107	0	0	0	0	0	5,107	0	0
決定額	5,107	0	0	0	0	0	5,107	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年ますます高齢化が進んでおり、長期にわたる医療・介護を必要とする患者が今後増加すると考えられる。

治療や療養を必要とする患者が、通院困難な状態であっても、居宅等の生活の場で必要な医療が受けられるように訪問診療等を行う医療機関の増加等の医療提供体制づくりが必要である。

最後まで居宅等で暮らしたいと希望する患者に対し、医療と介護サービスが連携して提供される体制づくりが必要である。

(2) 事業内容

○在宅医療連携支援事業

在宅医療・介護連携を担う地域医師会や医療機関等の取組みを支援するため、県医師会に相談支援員を配置し、在宅医療・介護連携の連絡調整や相談支援を行う相談員(在宅医療・介護連携推進コーディネーター)からの相談業務に対応するほか、相談員を対象とした研修会や相談員間の連携強化を図るためのネットワーク会議を開催する等、相談員の支援を実施する。

○在宅医療連携強化事業

在宅医の負担軽減及び24時間切れ目のない在宅医療提供体制の構築を図るため、診療所同士又は在宅病等と診療所が連携して体制構築に向けての検討。

○在宅医療ICTツール活用検討事業

在宅医療におけるICTの利用状況を調査し、今後の多職種連携のためのICTツール活用方法を検討。

(3) 県負担・補助率の考え方

第8期岐阜県保健医療計画において在宅医療提供体制を整備することとしている。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,107	人件費、備品購入費、通信費、講師謝金、旅費、会議費、他
合計	5,107	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第8期岐阜県保健医療計画

在宅医療対策

「在宅療養者のニーズに応じて、医療、介護等を包括的に提供できるよう各サービスの連携体制を構築します。」

「在宅医療において、多職種連携のためのICTツールを活用した情報共有の取組みへの支援を図り、在宅医療を担う多様な人材の育成を実施します。」

(2) 国・他県の状況

医療介護総合確保推進法に基づく県計画として、国の承認を得る予定。

(3) 後年度の財政負担

医療介護総合確保推進法に基づく県計画として計上し、実施していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

県民が安心して住み慣れた地域で在宅療養を続けていくためには、県民の生活を在宅医療・介護の一体的な提供により支えていく必要がある。

在宅医療に関わる市町村や介護従事者当、在宅医療に関わる必要な人材の育成や多職種連携の強化を図ることで、質の高い医療介護サービスの提供を推進するものである。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
訪問診療を実施する医療機関数の増加を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①訪問診療を実施する医療機関	468 (H29.5)	505	525	545	584	86.5%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>在宅医療・介護連携を担う各市町村の相談員（在宅医療・介護連携推進コーディネーター）からの相談対応及び支援を行うための相談支援員を配置。 地域医師会や多職種で構成されるグループにより、啓発資材を作成・配布。 医薬連携の一環として、在宅医療で使用する薬剤当についての研修動画を作成・公開。 医療関係者だけでなく、介護従事者をはじめとした在宅医療に関わる多職種従事者が連携して取り組むための知識や技術が向上し、在宅医療・介護連携機能の一層の強化が見込まれる。</p> <p>指標① 目標：584 実績：469 達成率：80%</p>
令和3年度	<p>在宅医療・介護連携を担う各市町村の相談員（在宅医療・介護連携推進コーディネーター）からの相談対応及び支援を行うための相談支援員を配置。 地域医師会や多職種で構成されるグループにより、啓発資材の作成・配布。 自宅療養患者に対する電話診療や往診を実施する医療機関向けに、自宅療養に関する研修会を実施 医療関係者だけでなく、介護従事者をはじめとした在宅医療に関わる多職種従事者が連携して取り組むための知識や技術が向上し、在宅医療・介護連携機能の一層の強化が見込まれる。</p> <p>指標① 目標：584 実績：469 達成率：80%</p>
令和4年度	<p>在宅医療・介護連携を担う各市町村の相談員（在宅医療・介護連携推進コーディネーター）からの相談対応及び支援を行うための相談支援員を設置。 地域医師会や多職種で構成されるグループにより、多職種連携のための研修会を実施 医薬連携の一環として、多職種を対象とした医薬連携の在り方をテーマに研修会を実施 医療関係者だけでなく、介護従事者をはじめとした在宅医療に関わる多職種従事者が連携して取り組むための知識や技術が向上し、在宅医療・介護連携機能の一層の強化が見込まれる。</p> <p>指標① 目標：584 実績：505 達成率：86%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>高齢の進行による療養を必要とする者の増加に備え、在宅医療の提供体制の構築・強化が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>市町村の在宅医療サポートセンターは開設されて年数が浅く、県医師会のサポートセンターが後方支援を行う必要がある状況。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>県内の相談員、地域包括支援センター職員等に対して実施することにより、相談員等相互間の連携の強化が図られる。また在宅医療に関する知見を有する岐阜県医師会へ事業を補助し、専門的知見から在宅医療に必要な連携や知識の習得を図る。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域の地理的状況や医療・介護資源の状況も異なるため、各地域の実情に応じたきめ細やかな対応が必要となる。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地域実情に応じた在宅医療に必要な連携の在り方等を引き続き検討していく必要があり、そのためには、医療連携のスキルや必要となる知識を有する人材の育成を継続する必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	